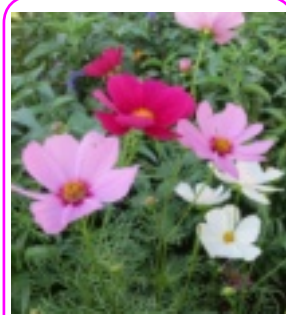


ぎやらりーわ

NO.72

2015年10月



●花の村内散歩
コスモス(藤田健一撮影)

編集・発行 NPO法人グループわ (小畑 浩昭) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL.078-743-8101 FAX743-3830

しあわせの村まつり



水の科学館ものづくり

工作塾

昆虫採集

一度に3個もゲット、しあわせの村まつり、わんぱく広場でのよーよー釣り

グループわ 企画

夏のイベント盛り沢山

昆虫採集教室でサンプルを覗き込む



今年の夏はとびきり暑く、会員のみなさまもまいったのではないのでしょうか。グループわ が企画した夏のイベントは盛り沢山。まず、7月25日にしあわせの村まつりのわんぱく広場、8月1、2日には村の野外活動センターで昆虫採集と標本作り教室、8月4日から16日までの12日間、水の科学館でものづくりイベント、8月9日は村本館で工作塾を開きました。子どもたちやパパ、ママ、おじいちゃん、おばあちゃんが多数参加、暑さを吹き飛ばしていました。みなさま、ご苦労様でした。
(取材・写真 広報 永野知己、岡本紘一、藤田健一)

東北交流 現地派遣は今年で終了 2、3面



ボランティアの輪をひろげよう

72号の内容

ボランティア活動を拡充	3面	ボランティアの心明生園活動20年	8面
ボランティア最前線 中央区会	4面	カレッジだより つぶやき	9面
この夏のイベント詳報	5面	イベント予定	10面
部会、区会活動レポート	6、7面	WAからのお知らせ	11面

東北現地派遣、今年で終了



6次派遣チームの報告会 11月17日開催

現地と手紙を交換する一などで、今後、理事会で検

東北交流の現地派遣は2015年度で終了することになりました。9月1日に開かれた理事会で決定、同15日の運営委員会です承されました。6次派遣隊の報告会をジョイラックデーの11月17日(火曜日)にカレッジホールで実施することと東北物産展を今後、開催しないことも決まりました。

報告会の中身は①派遣隊メンバーの体験談②パーポイントで6次派遣の記録を大画面に写し、1-6次派遣のまとめ③ホールの入り口でパネル7、8枚に写真を展示などです。

東北へは震災直後の2011年から2015年7月まで6回、仙台市、名取市、女川町などの仮設住宅や小学校、保

討することになります。

東北6次派遣の経費は 72万円

東北6次派遣の資金は72万円(サポート募金22万円、県の助成金50万円)。経費は72万円(交通費184,000円、宿泊費243,000円、レンタカー代など、現地交通費93,000円、通信・運搬費2万円、園児らへの遊び道具の材料費・みやげ代など18万円)でした。

サポート募金の26年度の繰り越し75万円、27年度の新規募金は30万円でした。6次派遣で22万円遣いましたので残りは83万円となります。

第6次東北交流に助成金50万円

兵庫県・市町生活支援協議会は、〈わ〉が先に申請していた第6次東北交流事業の助成金について6月19日付で50万円を交付することを承認しました。

(取材・編集 広報・永野知己)



再建されたJR女川駅 温泉も併設されている

育所などで昔遊び、マジック、銭太鼓、大道芸などの公演を実施してきました。停止の理由は、まず、震災から5年が経過、グループわとして一定の役割を果たすことが出来たと思われること。住民のニーズが変化し、これまでの公演中心のサポートを継続することには限界があること。震災当初から福祉医療機構から助成金を受けて活動してきたが、3年で打ち切りとなった。10数人派遣には120万円はかかり、派遣隊を編成して支援するには経費がかかりすぎる。さらに助成金は今後、あまり期待出来ず、持続的な活動の継続は難しくなったことがあります。

1日の理事会では、今後の東北交流について、せっかく繋がった縁を断ち切るのは忍びない、細く長く続けたいという意見が出ました。例えば①現地子どもたちへのクリスマスプレゼント②復興住宅で餅つきをするなら、もち米や現金を贈る③絵手紙や俳句などで

東北支援へのご協力に感謝

グループわ が2011年4月から5年間、続けてきた東北支援事業は、この7月に実施した第6次チームで一応終了することになりました。

田んぼ作業に奮闘した第1次チーム、初めて仮設住宅を訪問した第2次チーム、料理やスポーツで交流した第4次チーム、自治会と地域ボランティアについて討議した第6次チーム…。いずれも地元の子供たちや地域の皆さんと実り多い交流を重ねることができました。派遣人員も延べ80人にのぼり、これらの費用の多くは〈わ〉の会員や現役の皆さまから寄せられた「サポート募金」を活用させていただいたものです。メンバー派遣には昔あそび、マジック、銭太鼓など各サークルのお世話になりました。オールKSCで取り組んできた東北支援事業にご協力くださった多くの皆さまに、誌上を借りてあつく御礼申し上げます。

東北の皆さんと築いてきた絆は、何らかの形で継続したいと考えています。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

(理事長 小畑浩昭)

東北と絆つなげたい

「えっ、東北へ!」。急遽、穴埋め要員?で6次チームに参加することになりました。体力に自信がなく、芸もダメですが、「メンバーの足を引っ張らないようやるしかない」と心して出発。

被災地は、4年を経過した今も想像以上に悲惨な状況でした。名取市閑上地区は一面の野原。あるのは、住宅の土台だけ。女川町は、電車の開通に伴い立派な駅舎が完成していましたが、街中は土地のかさ上げ工事が始まったばかり。行き交うトラックの行列に驚きました。

住民の皆さんからは「また来てくれたん」「待ってたよ」と温かい出迎えを受け、保育所では、子どもたちの輝く笑顔に囲まれて私たちも元気に。復興住宅では、自治会が発足、イベントが活発に行われるなど、住民の自立が進んでいることも実感できました。

東北への派遣事業は今回で終了しますが、派遣はやめても絆を絶やさぬ道はないものか…そんなことを考えつつ被災地を後にしました。

(前理事 井口久美子・福16)

私のボランティア日記

むかしあそび研究会 大澤貞男(生13期)

ボランティア活動に励んでいると、楽しく、なんとなく心が満たされるような気持ちになりますね。働いている頃、人の為になるとか、人の為になにかするなど考えてもいませんでした。それが退職後に何故か???

「再び学んで・・・」こればかりではない。入ったクラブがボランティア専門?。これでは、ボランティア街道まっしぐら?。4年前に起きた東日本大震災で「何とかしてあげたい、何か出来ないか」という気持ちだけでグループわの支援活動チームに参加しました。昔の遊びを通して、こども達の心のケアをしたいとの目標を心密にかかかけていたりして。訪問するたびに、こども達や先生は大喜び。帰る時には「また来てね」の大合唱。でも本当に心のケアに役立っているのか、不安と反省もあつたりします。

継続は力なり。震災直後から6回、やってきたので、やっと心を通じ合えるようになった気がします。機会があれば、また、元気なこども達にお目に掛かりたいものです。

新たな事業展開への取り組み

グループわ 本部の事業担当理事は、今年の春からボランティア活動の申し込みを〈わ〉の各クラブにつなぐだけでなく、理事が市内の老人福祉施設などを訪問、どのような需要があるかを探っています。また、〈わ〉のクラブの定期練習や講習会などに参加、提供できるサービスや条件など固有の事情を調査しています。

これまでに17か所の施設を訪問、7施設でサービスを提供することで合意しました。5月から8月までに12回、サービスを提供しました。9月は9回実施。現在、5か所の施設に月1回、定期訪問しています。ボランティア活動領域の拡大と、文化部会を中心とした活動機会の増大につながってきました。

具体的には6月以降、9月までに、須磨区道正台のデイサービス施設のすまいるSUMAに、大正琴プリムラ・おはなし糸車・うらしまたろう・SCハワイアンズ・木工グループに活動をお願いし、7回訪問しました。



その一つ、9月12日(土)は、うらしまたろうさんが、音頭体操・銭太鼓・面白メガネ・民踊・南京玉すだれを披露し、大変喜んで頂きました。

特に、民踊の河内おとこ節では、85歳のご婦人が飛び入り参加されるなど大変な盛り上がりでした。

続いて、9月15日(火)も木工グループさんをお願いし、モビール作りで楽しんで頂きました。

細かい作業もあり悪戦苦闘でしたが、お孫さんへのお土産が出来たと大変喜んでおられました。次はクリスマスの作品が作りたくと、次の予約を頂きました。

碁や将棋などもサービス提供を強く望む声があり、これに応えてゆきます。

(広報 藤田 健一)

中央区会 毎年お手伝い10年余

障害者のハートでアート展



県立美術館で開かれた
ハートでアート美術展

ボランティア最前線

障害者の美術展第14回「ハートでアートこうべ 2015」は9月10日(木)から13日(火)まで、中央区の県立美術館で開かれ、グループわの中央区会の有志ボランティア12人が会場設営、作品搬入、受付、会場案内などのお手伝いをしました。ボランティアは中央区会など7団体、個人参加もありです。1日に30～40人が活動。同区会の参加は十数年になるとか。

「やったー！。ついに入選や」。長年、応募し続けた方でしょう、満面の笑顔。自分の作品が飾ってあるだけで喜ぶ人もいます。中にはびっくりするほど上手な傑作もあり、脱帽。障害者の喜ぶ顔が見たい一心、年を重ねても、このボランティアだけは続ける人もあるとか。

ハートでアート展は同展実行員会が主催(事務局は中央区社会福祉協議会内)。2002年に第1回を開催、158点の作品が集まりました。年々応募者が増え、今年は632点を展示。応募すれば、どなたの作品でも無料で必ず展示されます。同展は、障害者の芸術活動を助け、居場所づくり、生きがいづくりに資するものです。絵画、書、写真、陶芸、織物、その他(立体造形、彫塑)6部門に別れ、テーマは自由です。

作品審査があり、優秀作10点、入選作50点を選びます。個人や作業所ごとに応募。「プロ級の作家もいて、国内だけでなく世界に名を知られた作家も育っているそうです。広い部屋を6, 7か所のコーナーに分け、すべての作品を展示。高い場所に飾る作品もあります。「名前を間違えたらいかん」「壊したらいかん」と丁寧に扱うため時間が掛ります。

美術展と同時に、手芸品、パン、クッキーなどの即売コーナーも設けられ、結構な人気。子どもたちによるコンテストもあり「ぼくは、わたしは、これが好き」で投票、審査員の入選作とは別の作品が選ばれることもあるそうです。

取材にお伺いした初日の9月10日は、五味正昭さん(福7)が案内・

会場巡回、森田邦子(生13)さんと、手島道子(生9)さんが体験コーナー、元田弘忠(生9)さんが介助・付添、水町亮治(生18)さんがふれあい工房のクッキーなどの販売を担当しました。五味さんは「10日は、出展した作業所のグループの人が目立った。素晴らしい作品ばかりで、私たちも大いに楽しませてもらっている」と話していました。作品を寄せた神戸市内の小学生もふくめ、9校が見学を訪れたといひます。

(取材・写真 広報 永野 知己)



スイーツデゴ体験の森田さん(右から2人目)

グループわ わんぱく広場を担当

しあわせの村 村まつり

「やったー！跳んだ」。はねかえるの遊び方を真剣な顔で、教えてもらっていた6歳位の坊やの顔がパッと笑み崩れました。7月25日午後4時から開かれたしあわせの村まつりのわんぱく広場での一瞬。



グループわ は、わんぱく広場を担当。むかしあそび研究会がコマまわし、紙トンボ、ぶんぶんごま、はねかえる、ヨーヨーつり、けん玉、割り箸鉄砲、竹馬のコーナーを設けました。うらしまたろうはバルーンアートと皿回し、本部はフロアカーリング、妖怪ホイホイと輪投げを受け持ちました。スタッフは約70人が出動、汗だくで、お茶を飲む暇も無い位。

妖怪ホイホイは初の登場。長さ約5メートルのシートの上を妖怪ホイホイの顔をつけた楕円型の板をスタッフがゴムで引っ張って飛ばします。ゴールの箱の前でスリッパを手に待ち構える子どもが真上から打ち下ろして止めたら得点、箱の中に3回入ったらゲームは終了、別の子と交代します。午後6時30分の終了まで、遊ぶ人が絶えませんでした。

ヨーヨーつりも人気があり、順番待ちの長い列。一度に3つも釣り上げる子がいて、スタッフもびっくり。竹馬はハシが支えてあげ、ようやく4歩、5歩と歩ける子ども。バルーンアートでは出来上がった風船を渡した途端、なぜか破裂してしまうハプニングも。

しあわせの村を運営する福祉振興協会の話では、この日の人出は約24000人。まつりの目玉、午後7時からのアグネス・チャンショーは大好評だったそうです。

面白かった！ マイお箸づくり

水の科学館「ものづくりイベント」

グループわ がコーディネートした水の科学館での「ものづくりイベント」は大変、好評でした。8月4日から16日までの12日間、毎日午前10時から午後3時まで、<わ>のスタッフ10人内外が会場に詰め、子どもたちと楽しみました。

「ほんま、助かるわ。クーラーが効いて、無料で子どもを遊ばせてもらえて。部屋の中やから安心やし」——。12日の親子で楽しむマイ箸作り会場で、若いママさんが口々に話していました。

マイ箸作りは、花実の森PJの担当。午前・午後の部とも各親子10組が先着順で挑戦。箸の形の削り台を作業台にセット、安定させてから、作業を進めます。次に荒削りしてある黒檀の箸材で本番。初めての人がほとんどで、スタッフは子どもにつきっきり。カンナの角度や力の入れ方など、手助けしました。自分の好みの形や太さに削ります。大体仕上がると、サンドペーパーで表面を磨きあげ、使いやすい長さに箸を切断、仕上げます。折り紙で箸袋も作りました。

子どもたちは額に汗をにじませ、削りすぎるなど苦心惨憺。小さな手でカンナを使うのは難しそう。静岡の小学生姉妹は神戸の祖父宅に遊びに来ていて、5日の絵手紙教室に参加。箸作りにも挑戦し「面白かった。神戸のいいお土産になる」と目を輝かせていました。

◆その他の催し▽8月4日＝機関車など車作り(木工グループ)▽5日＝絵手紙(絵手紙グループ)▽6日＝押し花絵葉書(ケナフの会)▽7日＝工作(むかしあそび研究会)▽8日＝銭太鼓実演(楽遊クラブ銀雅)▽9日＝バルーンアート(うらしまたろう)▽11日＝パーニングアート(花実の森PJ)▽13日＝どんぐり、松かさクラフト(里山和楽会)▽14日＝マジックショー(KSCマジッククラブ)▽15日＝マグネット帽子作り(たんすの肥やし)▽16日＝割りばし鉄砲(むかしあそび研究会)

(以上2本 広報 永野 知己)



暑い中 昆虫採集頑張りました

グループわ は里山和楽会の皆さんと一緒に、夏休み「昆虫採集と標本作り」教室を開催しました。

8月1-2日の両日、午前、午後の4回に分けて延べ120人の児童を対象に開催し、先ず神戸小動物生態研究会代表の宮崎敏弥先生が昆虫採集の手ほどきなどを説明後、虫取り網を片手にお父さん・お母さんと一緒に昆虫採集に懸命に頑張りました。昆虫採集後に、標本作りのアドバイスをもらいながら、標本を完成させ、全員がその出来栄を発表しました。

(広報 藤田 健一)

部会レポート

再生可能エネルギー シンポジウム

7月16日午後、兵庫県民会館の県民ホールで、神戸市シルバーカレッジ 交流フェア6 シンポジウム「市民の手で広げよう再生可能エネルギーを」が開催されました。参加者260人。

グループわ 環境部会「創エネ神戸」山田通裕代表がパネリストとして参加しました。



服部祥子学長と神戸市環境局大森正明局長のごあいさつの後に、和田武先生（自然エネルギー市民の会代表）から、「再生可能エネルギーの普及と市民の役割」と題して基調講演がありました。

最初に次の5人のパネリストから8分ずつパワーポイントでの説明がありました。米田幹生氏（神戸市環境局環境貢献都市担当部長）、西田圭一氏（NPO法人たけのコム理事）、井上保子氏（非営利型株式会社宝塚すみれ発電代表取締役）、山田通裕氏（NPO法人グループわ 創エネ神戸代表）、豊田陽介氏（NPO法人気候ネットワーク主任研究員）の5人。



創エネ神戸 山田通裕

横山孝雄氏（神戸市シルバーカレッジ講師）がコーディネーターとなり、活発な意見交換が行われました。

誰が中心になって、どのように進めるのか。経済性よりも地球温暖化防止という目的優先に。次の世代に美しい地球環境を残してゆくことに、いきがいをなど。

その後に再生可能エネルギーの普及を広く市民に呼びかける市民アピールが採択されました。

会場には、台風接近の中でしたが、多くのカレッジ学生やOB、一般の方が集まり熱心に、再生可能エネルギーや市民共同発電などについての話を聞いていました。（広報 岡本 紘一）

ファイスタペルアナ神戸に参加

7月19日午前11時から、神戸市勤労会館大ホールで開かれた「ファイスタペルアナ神戸」にボランティアとして参加しました。

ひょうごラテンコミュニティ主催で、日本各地に住

むペルー人や日本人を含む100人以上のアーティストが参加。にぎやかに楽しくアンデスの音楽やダンスを披露、ステージ前では、観客も手拍子を打ち、踊っていました。私と同じくらいの年齢と思われる男性2人と組んで、来場者にスペイン語の多くのパンフレット渡す役目でした。ほかの方は、前日の会場設営、当日の物品販売、来賓接待、出演者誘導などを受け持ちました。イベント終了後テーブル、いすなどを元の位置に戻し、きれいに掃除した後、午後9時前に解散しました。長時間の活動で疲れましたが、大勢の人と出会え、とても楽しい一日でした。

（国11 菅田啓子）

遊んで学ぶ四季の野草

しあわせの村の自然を探そうをテーマに、9月23日（水）の午後に、グループわ 野草クラブ主催・振興協会の協力

で、野外活動センターで野草とのふれあい教室を開催しました。



親子33名が参加され、パワーポイントによる野草についての説明や、野草すくろく・野草カルタ・ピオトープでの野草観察など、自然とのふれあいを楽しんでいました。

中でもすすきバツタ作りでは、親子で悪戦苦闘しながら頑張っていました。なお、本来はすすきの茎で作るそうですが、手に切り傷がつかないように、紙での模擬制作にしたそうです。（広報 藤田 健一）

2015年音文交歓会開く

2015年音文交歓会が8月7日正午からカレッジホールで開かれました。6、8、9期と11期～19期卒業グループのほか、期が混合する1グループ計13グループ・250人が参加。各グループはコスチュームにドレスアップ、混声合唱や器楽演奏で日ごろの練習成果を披露しました。「川の流れのように」、「夏の思い出」、「美しく青きドナウ」などだれでも知っている曲が流れ、体でリズムを取る人もおり、この夏の暑さを吹き飛ばしていました。ボランティア活動に励んだり、コンクールに出場するグループもあるそうです。今年で9回目。

区会レポート

須磨区会 トライやるウィークをサポート

須磨区会の21人は、9月28日（月）から10月2日（金）までの5日間、青陽須磨支援学校のトライやるウィークにサポーターとして参加しました。中等部2年生の障害のある生徒27人が神出自然教育園、北須磨保育センター、地下鉄名谷基地など13か所の受け入れ事業所に分かれ、初めて仕事を体験するのを見守り、ときに手を貸して助けるのです。

9月30日、神出自然教育園では西尾孟三、内藤宣子、廣澤陽子、高津尚之、斎藤幸久、永野知己の6人と担当教師とで8人の生徒に1人ずつ付き添いました。朝9時に学校に集合。事前説明と朝礼の後スクールバスで出発、園に到着すると用意された軍手や長靴で身仕度をととのえ作業場へ。しかし生徒の中には途中で立ち止まって、背中を押しても動かなくなる子がいたりします。担当の教師から「しばらくそのままけがをしないよう見守ってくだされば結構です」と言われ、障害児に付き添う

とはそういうことなのかと気付かされました。ブドウのハウスのまわりに生い茂った草を引く仕事では、懸命に草を引きポリバケツに4杯も5杯も集める生徒もいれば、真似事ほどの生徒もいます。見学に来た母親から「やってみせて」といわれると草をちょっと引いて「もうお終い」という生徒もいました。

生徒の障害は、会話ができない、歩行が不自由など現れ方も程度も様々です。しかしこのトライやるウィークを通じてそれぞれに新しい体験を得たに違いありません。学校にとっても受入れ事業所にとっても、また家族にとっても、さらにはボランティアにとっても気が抜けない行事ですが、終わっていきさかの達成感を感じたことも確かです。（須磨区会 永野知己）

垂水区会 姫路城を歴史探訪

6月23日、リニューアルされた国宝姫路城の内濠コースを18人が楽しみ、全方角から姫路城を眺めました。「イーグレひめじ」の屋上からは姫路城の全景が一望でき、素晴らしい眺望でした。50年ぶりの人、30年ぶりの人、最近天守閣に登ったけれども姫路城の周辺を

巡るのは初めての人など様々ですが、楽しく姫路城の周辺を探訪しました。参加者に1期の方がいて、最後まで一緒に巡り、元気を頂きました。初めて顔を合わせた人も多かったのですが、すぐに会話が始まり、気持ちの良い歴史探訪になりました。（垂水区会 岡本統一）



中央区会 ◆小学校の運動会支援 6月6日に、雲中と上筒井小学校で、父兄や親族方の会場への入退出のチェックの支援活動を4人で行いました。綱引きや玉入れ、紅白対抗リレーなど昔と変わらぬゲーム、スポーツが有り、懐かしく感じられました。

北区会 ◆グラウンドゴルフ大会開催 さわやかに晴れあがった10月9日、しあわせの村球戯場で27人が参加して開催。試合は9組に分かれ、2ラウンドの個人戦で行われました。優勝は、広地良子さん(43)、同点で最少打数の多い樽井啓祐さん(44)が2位、實松良次さん(44)が3位となりました。終了後、野外活動センターのレストラン「アミーゴ」に会場を移し、恒例の昼食会と表彰式が行われ、秋の一日、楽しく親睦を深めることができました。

須磨区会 ◆須磨海岸クリーンアップ作戦 6月28日に参加しました。神戸びかびか隊やカレッジ生も参加。須磨区会としては定例で清掃活動を行っており、7、8月は毎週実施しています。

垂水区会 ◆サークル・クルレ農業体験活動支援 メンバー8人が6月21日、発達障害児童・生徒とその家族のための農業体験活動を手助けしました。幅代表に招待された小畑理事長も活動に参加。社団法人クルレから5月に感謝状を贈られています。

◆グラウンドゴルフ大会開催 7月12日午後、30人が参加。舞子苔谷公園で元気に3ラウンド楽しみました。

◆多間ひまわり幼稚園支援 7月14日に、今年も「カレパティ」に支援メンバー6人が招待されました。園児たちが参加意欲満々でつくったカレーを、園児と一緒に美味しく食べ、園児から元気をもらいました。

◆介護老人施設の夏祭り支援 7月18日、舞子台ホームの夏祭りの支援を5人が行いました。垂水区ボラセンからの依頼によるもので、踊り、花火大会を入所者・家族と一緒に楽しみました。

（編集 広報 岡本統一）

ボランティアの心

傘寿を超えて喜んで貰えるのがうれしくて

K S Cに入学したのは1994年の9月でした。その4ヶ月後、神戸の街は、あの震災に見舞われK S Cも休校に。当時所属していた西区バレーボール連盟の仲間と避難所で炊き出しを始めました。レクリエーション指導者クラブの一員として、被災者の方々のストレスや運動不足を解消していただこうと、用具や景品を持参して遊んでもらう活動も行いました。あの時は、ただ「何かせずにはられない」という思い、避難所の方々が一日も早く元の生活に戻れるようにと祈る一心で通い続けたのです。それが、ボランティアとの出会いでした。K S Cが4月に再開されると、私は「コーロK S C」の皆さんと障害者や老人の介護施設でのボランティア活動を始めました。

卒業後も、宮城さん達と明生園へ、また「コーロむつみ」「ト音記号」「フリーハワイアンズ」の仲間との施設訪問や、小学校での昔遊びの伝承指導、そして個人的にもいくつかの福祉施設を訪れる活動を続け、気が付けばもう20年。「ああ楽しかった、また来てね」の笑顔に励まされながら、



傘寿を超えた今もボランティアを続けてます。けれど、その活動は「ボランティアをするぞ!」などと大きく構えたものではありません。「歌や遊びなど自分の得意分野を生かして一緒に楽しむ」、そんな思いです。

施設訪問のプログラムは、まず季節の歌や懐かしい歌から始まります。歌は過去の記憶を呼び覚まし、安らぎを与えてくれるからです。例えば

「七夕さま」を歌えば笹飾りが浮かび、「短冊に筆で願い事を書いたね」「里芋の葉の雫を集めて墨をすったよ」など、次々と蘇る故郷の風景や風習を語り合うにつれ、若いころに戻ったように生き生きとした表情を見せてくれます。次に、手遊び・ボール遊びなどを楽しみ、最後に手品を

披露して大きな拍手と笑顔をいただいたところで、「次回も元気でお会いしましょう」と約束をして終わります。

振り返ってみれば、現役時代は子供相手の仕事を30年、レクリエーション指導者になって22年。結局、私は「誰かに喜んでもらうこと」が単純にうれしいのです。これからも経験を活かし、いくらからでも社会に還元できるよう努めたいと思います。11月15日の「神戸マラソン」では、今年も警備員として街のどこかに立っていることでしょう。

(門脇 淳子・福2期 明生園)

夏休みの工作が出来た!

8月9日に夏休み工作塾がグループわ ところへ市民福祉振興協会との共催で、しあわせの村の研修館のホールと大会議室で開かれ、400人を超す親子連れの熱気と歓声で溢れました。グループわ は、7グループと本部からスタッフ100人が出て、子供たちにアドバイスをしたり、手伝ったりして、大忙しの日でした。

Aブースは木工グループで、動物、車、登り人形などを、ゴシゴシと木をきり、トントンと釘打ちでにぎやかです。Bブースではむかしあそび研究会の折り染めを使用したウチワと小物入れの作成にトライしています。ケナフの会の押し花絵葉書・葉の作成に真剣です。里山和楽会はドングリや小枝を使ったネイチャークラフト作



り、個性的な作品となっていました。Cブースでは、里山グループのつる細工でリース制作を行っており、親子でトライしています。

花実の森PJでは木片を焼いて絵を描く

バーニングアートです。長時間頑張っていました。絵手紙グループでも、女の子が挑戦していました。むかしあそび研究会の竹細工は器械体操人形で、親子と一緒に制作していました。子どもたちは各ブースより1作品、合計3作品を作成して、完成した作品を大事に持って、自慢そうな顔、満足した顔。その子どもたちの笑顔に手伝ったスタッフも満足そうでした。

(広報 岡本統一)



ネイチャークラフト

カレッジだより



学園祭にグループわ参加

10月10日(土) 薄曇の下、「心の輪、絆広げる学園祭」の合言葉を掲げて開催された学園祭に、グループわ も多くの会員が参加しました。

学園祭への来場者数は約3000人で、多くのOBの姿が見られました。

中庭に出店

国際部会がシアトルクラムチャウダーとミャンマーコーヒーを出店しました。クラムチャウダーは、神戸・シアトル姉妹都市協会の人の援助を受けながら



の出店で、クリーミーで美味しいとの評判でした。クラムチャウダーは300食、コーヒーは150杯出たそうです。ミャンマーの民芸品も販売していました。

隣には、OBカレーの店(食文19期)が出展、呼び込みを競い合いながら販売し、早くも11時頃には300食が完売しました。

木工グループの店は、現役生とOBの木工手作り

作品の展示販売を行っており、1期生の作品やガーデンテーブルのような大物の作品もありました。開店と同時



に買い求める人で長い行列が出来ていました。

ケナフの会の店はケナフ炭、竹炭、ケナフ染めのスカーフなどが販売されて入り、説明を聞きながら買い求めていました。

カレッジホールのステージ

立ち見が出る程大盛況でした。OBも多数出演しており、その主な出演団体は次の通りでした。

新舞踊クラブは、「峠越え」の男舞い、「一期一会」の扇の舞で華やかに舞っていました。KSC男声合唱団は「夢を見ようよ」「サライ」など4曲を



披露しました。近々、台湾へ交流演奏会に出かけるそうです。民謡同好会は「秋田節」「廣嶋木遣り音頭」などを踊りを交えて演奏して手拍子をもらっていました。最後に混声合唱団コーロKSCが「おおシャンゼリゼ」「高原列車は行く」など5曲を高らかに歌い上げました。

ふれあいホール

8枚の展示パネルに、部会活動を中心にグループわの紹介ポスター、ジョイラックデイのイベント

「東北交流活動報告会・学習支援の集い」のポスターなどを展示して、現役生などに呼びかけました。



ボランティア募金活動もボランティアセンターと一緒に、ホール前で行いました。



2Fの同窓会の部屋にも多くのOBが訪れていました。

(広報 岡本紘一 藤田健一)

グループわ 10月～12月のイベント

開催日時・場所	テーマ・内容と協力グループ	連絡先
10月 8日(木)～11月 1日(日) 9時～17時 こうべ環境未来館	夏「エコ+」企画展 ステナアイデア!? 作品展 古着を使ったステナアイデア作品の展示 協力;たんすのこやし	環境未来館 078-995-3196
10月31日(土) 9時30分～ カレッジ	ケナフの和紙つくりと竹の炭焼き体験 協力;ケナフの会	グループ わ 078-743-8101
11月 9日(月) 親睦行事 9時30分～ 宝塚中山寺周辺	秋の森林浴ウオーキング 協力;森の仲間	グループ わ 078-743-8101
11月17日(火) ジョイラックデイ 11時～ カレッジホール ふれあいホール	第6次東北交流報告会 第1次から5次までの活動の報告 第6次隊に参加した現役学生による体験談 パネル写真展(第1次～第6次の記録写真)	グループ わ 078-743-8101
11月17日(火) ジョイラックデイ 13時～ カレッジ教室	学習支援の集い 講演「学習支援の現場から」 神戸市立青陽須磨支援学校 支援部長 岸田博子教諭 学習支援あれこれ 日常直面する事項の質疑	グループ わ 078-743-8101 鳥越清敏教諭

学習支援活動の継続と発展を！

27年度第一回の学習支援者の集いが、7月24日午後カレッジの学習室で開催され、支援者約20人とカレッジの地域交流活動の田阪リーダーが参加しました。

小畑理事長のあいさつに続いて、堺汎委員長(園15)が26年度の活動報告を行い、特に特別支援について、小学校の要請に残念ながらすべてに対応できていない状況。予算は少ないが学習支援は大事な活動であり、続けていきたいと説明がありました。

体験報告として、最初に語り部チームの渡辺寛治さん(国10)が「戦争と平和学習」語り部授業について、自身の活動体験と語り部授業の取り組み状況、中学校にも対象が拡大したことなどを説明。そしてこの活動を続けていくために新しい人に是非参加して欲しいと。続いて、南形公子さん(福13)が、「特別支援ボランティアを振り返って」と題して、始める切っ掛け、自身の体調



管理、地域の活動の輪に自然に入れた、子どもたちとの触れ合いなどやって良かったこと、少し戸惑っていることなど特別支援の体験を熱く語り、仲間がほしいと。

田阪リーダーからは地域交流グループによる学校支援について、パワーポイントにより説明がありました。OBと一緒に活動が



増加している。行事などの受付支援や登下校の見守り支援が多い。特別支援は3校について行われているが、学校の要請に対応できていないなど。

最後に、27年度も多く的小学校から支援要請がきており、この学習支援活動を継続・発展させるには、グループわの学習支援者がカレッジの地域交流グループに対して特別支援の体験などの支援を行って、協働の活動になるよう進める必要があるとの意見がありました。

(写真：永野知己 取材・編集：岡本紘一)

WAからのお知らせ



グループわ の新旧役員が懇親会

グループわ の第7回新旧役員交流会が、7月22日新神戸オリエンタルアベニューの金寶来で開かれ、37人が参加。加藤勇治会長・服部祥子カレッジ学長・小畑理事長の挨拶の後、マジック、ハーモニカ伴奏による歌、ハワイアン演奏とフラダンスなど、夕食を共にしながら、約2時間にわたって旧交を温めた交流会となりました。

内閣府主催の高齢社会フォーラム 混声合唱団コーロKSCが受賞

平成27年度高齢社会フォーラムin 滋賀が開催され、混声合唱団コーロKSC（寄藤忠彦代表）が「平成27年度エイジレス・ライフおよび社会参加活動」に貢献されたということで、エイジレス章（楯）と社会参加活動章（賞状）の表章をうけました。混声合唱団コーロKSCは、月2回の友愛訪問やイベント出演するなど、ボランティア活動に積極的に参加して社会との繋がりを大切にしている、20年以上ボランティア活動や演奏活動を継続した実績と功績に対して表章されました。

神戸市社会福祉大会

文化部会 2グループと淡路さんに感謝状

神戸市社会福祉大会が、9月11日に神戸文化ホールで開催され、SCハワイアンズ（石田幸司代表）淡路忠義さん（北区）KSC手話ソング同好会（北島輝子代表）に神戸市社会福祉協議会より理事長感謝状が贈られました。SCハワイアンズは平成12年4月から地域の福祉施設でバンド演奏及びフラダンス出演の奉仕をされていること、淡路忠義さんは平成15年4月から高齢者福祉施設で身辺ケア及び食事介助の奉仕をされていることが、KSC手話ソング同好会は平成17年4月から高齢者施設や地域福祉センターで手話ソングによるふれあい活動の奉仕をされていることが評価されました。

2015全国シルバー合唱コンクール

KSC男声合唱団が審査員特別賞

東日本大震災復興支援 こうべ長寿祭 2015全国シルバー合唱コンクールが、9月18日に神戸文化ホールで開催され、全国より多くの団体が参戦し、KSC男声合唱団（北山忠代表）が審査員特別賞をうけました。KSC男声合唱団は福祉施設への友愛訪問やイベント出演を積極的に行っており、コンクール参加のために夏季合宿も行いました。

●73号（1月号）の発行2016年1月中旬です。

グループわ 本部のメールアドレス

広報・ホームページ wa_gallery@wa-net.jp

10月31日に銭太鼓100人打ち開催

楽遊クラブ銀雅 10月31日（土）午後1時からシルバーカレッジホールで第10回銭太鼓交流会「百人打ち」を開催します。9グループ130人が出場。入場は無料。民謡、演歌、歌謡曲、童謡まで幅広く、明るく元気な曲で楽しんでいただきます。銭太鼓以外に、傘踊りや南京玉すだれなどの演技もご覧いただけます。皆さんのご参加をお待ちしています。問い合わせは重松豊彦代表（078-811-5814）まで。

グループわ 本部のメールアドレス

コミュニケーションを改善するためにグループわ の本部ではパソコンを一人一台体制にすると共に、メールアドレスを次の通りとしました。

代表・総務・学習支援：group_wa@wa-net.jp
広報・ホームページ：wa_gallery@wa-net.jp
事業・パソコン教室：wa_support@wa-net.jp
ご利用願います。

カレッジ まちかどキャンパス

11月7日午後、ダイナミックウオーキング（いつまでも元気で歩く秘訣）の講演、魅惑のマリンバ コンサートが、垂水勤労市民センター3Fレバンテホールにて開催されます。参加無料

編集後記



★東北6次交流から帰ってから写真と悪戦苦闘。撮った写真は1100枚。7月6日、神戸に帰り、まず、使えそうな300枚余り選ぶ。さらに7月号ぎゅらりー用、HP用の写真50枚。東北報告会用にパワーポイントによるグラフとパネル写真展作成。息もつかなかった。（永野知己）

★ホームページを担当して実質1年が過ぎました。皆様のご活躍を出来るだけ多くタイムリーに掲載して、情報交換が盛んになることを目指しています。投稿して頂いたらどのように掲載するかに注力していますので、小さな情報も含めてご提供頂けるようよろしくお願いします。（岡本統一）

★グループわ の広報担当として、早や半年余りが経過しようとしています。最近イベントやボランティア活動の最前線で取材するなど、写真撮影とその編集に頑張っています。より多くの人にタイムリーな情報提供と判りやすい紙面づくりに努めていきます。（藤田健一）

代表・総務・学習支援 group_wa@wa-net.jp

事業・パソコン教室：wa_support@wa-net.jp

夏のイベント特集



しあわせの村まつり



夏休みワークショップ



昆虫採集

トピックス



マイ箸しんす



妖怪ホイホイを楽しむ児童

シルバーカレッジ関係者の皆さま ご利用をお待ちしています。
ご予約の際、お申し出下されば特別価格でご提供します。

お料理 特別価格の一例
(税別・飲み放題込)
大皿宴会コース 5,000円→4,000円
大漁桶コース 5,000円→4,000円
●お昼の宴会 3,500円から
(15名様以上…要予約)
◎ご家族でのご利用も歓迎します。



阪急・JR三ノ宮から北へ歩3分

かねも

瀬戸内魚料理

☎331-3911



代表 森下延市(福18期)